

運動の楽しさを味わい、進んで運動に親しもうとする児童の育成
 ～「わかる・できる・かかわる」を実感させる楽しい授業を目指して～

発表者 国富町立八代小学校 勘米良 明
 司会・進行 国富町立森永小学校 富永 長武
 記録者 都城市立丸野小学校 川野 泰寛

発 言 者	内 容
西池小 金丸先生 発表者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 低学年に向けてのサッカーは、なかなか技術が身に付かない。気をつけた点は何か教えてほしい。 ○ 研究3年目としてどういう研究を進めているか教えてほしい。 ・ 技能面に関しては、まず2年生でパス・シュート・ドリブルをやってみようと思ったが、ドリブルは難しい。パスを確実に習得させることとシュートをしっかりと習得させ、3年生にあげさせることを目標としてやってきた。 ・ 体力が低いという課題がある。授業の運動の確保はもちろん、授業以外の運動の確保を目標としている。昼休みの有効活用を考えている。スクールバスで登校している児童は体力の低下が見られるので、学校内にいる間に体力向上の取組みを行っていきたい。生活習慣が乱れている児童に対しても、外に出て運動ができるような時間を確保していきたいと考えている。
恒富小 永野先生 発表者	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボール遊びでは、具体的にどんな作戦パターンを提示したか。 ・ 大きく2つ作戦例を出した。1つは、チームが4～5人のチーム構成の中でスタート時に2人ゴール前に出てすぐにゴールできるようにした。また、攻撃の時にパスを得点として認めることで、パスをつなぐ意識をもたせるようにした。その後、児童の中で作戦を考えようとする姿が見られた。
富永先生	<ul style="list-style-type: none"> ○ 技能がある児童だけが活躍しないようなルールや作戦はないか、考えてみてはいかがでしょう。
南九大 宮内先生	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちの学習の中で後ろにパスをする経験がないが、類似の運動経験は何をさせたか。
本庄小 大森先生	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楕円球のボールに慣れていないので、内側に向けてのパス練習をさせた。その後、一步引いて手の届かないような場所でパス練習をさせた。体をひねってのパス練習をさせることで、後ろへのパスを意識させた。ボールに向かって走る児童が多いので、三角形を作りながらパス練習をさせ、後ろ向きのパスを意識させた。学年が低ければ、手渡しのパスのでもよいのではないか。